



栄中だより

栄中開校58年「いいとこ探しの学校」自主・自律・親和・協力 笑顔あふれる栄中学校

草加市立栄中学校

令和3年度6月号

令和3年6月1日

バラが咲いた

～君の心に火をつける～

校長 今泉 正之

雨天のため5月24日に延期となりましたが、2年ぶりの運動会を開催しました。今年度は地域・保護者の皆様の参観を御遠慮いただき、種目の変更や競技前後の消毒、マスクの着用などの感染防止対策をして実施しました。生徒たちはすこし控えめな応援の声や歓声をあげながら、全力で楽しそうに競技していました。特に3年生は、運動会全体の進行や係活動の中心となり、競技や応援にたくましい最上級生の姿を見せてくれ、1,2年に栄中の伝統を感じさせる存在感を見せてくれました。閉会式終了後に、学級の応援ボードの後ろで、この時だけマスクをはずして撮った集合写真に集まる、少しマスクのあとが残る笑顔には、久しぶりにみる白い歯がのぞいていました。この笑顔に、改めて学校行事の大切さや必要性を感じました。

さて、今回はある歌の歌詞の話です。今年はNHK「みんなのうた」放送開始60周年にあたる年ということで、毎月特別番組が放送されています。自分も幼稚園や小学校の頃に聞いた曲や、音楽の時間に歌った曲が流れ、家族に少し嫌な顔をされながらも、つい口ずさんでしまっています。その中の一曲が「バラが咲いた」です。50年以上前の歌なので、保護者の方の中にはお聞きになったことがない方も多いのではないのでしょうか。「バラが咲いた、バラが咲いた」で始まる歌詞は簡単です。庭に咲いた一輪のバラに勇気づけられ、バラが散った後も自分の心の中にその想いが残っているという内容ですが、もちろんバラとは何のことか、それが散ってしまうとはどういうことか、散った後に咲いた心のバラとはどういうことか、簡単な歌詞だからこそ様々な解釈ができると思います。この歌の歌詞を改めて聞いた時、子供たちの心の中にバラを咲かせることが学校や家庭の役割なのだと思います。自分もできるという気持ち、これをがんばりたい、こうなりたいという夢や目標、自分を価値ある存在として捉える気持ち(自己肯定感)、集団の中で自分の存在を認識する気持ち(自己有用感)を心の中に植え付けることで、子供たちは主体的に自分の力を伸ばしていくことができるのです。本校の校訓「自主・自律」にはそんな願いが込められています。自分は剣道部の顧問を長く務めてきましたが、ある時「良い指導者とは子供の心に火をつける指導者だ」と教えていただいたことがあります。すべて子供の心にバラを咲かせることができるよう大人が良い種をまいてあげたいものです。

今、街を歩いていると多くの家のバラが咲き誇っています。そのひとつひとつが子供たちの心に咲いてくれますように。

「バラが咲いた」 浜口庫之助作詞・作曲

バラが咲いた バラが咲いた 真赤なバラが
淋しかった ぼくの庭に バラが咲いた
たったひとつ 咲いたバラ 小さなバラで
淋しかった ぼくの庭が 明るくなった
バラよ バラよ 小さなバラ
そのままに そこに咲いておくれ
バラが咲いた バラが咲いた
真赤なバラで 淋しかった ぼくの庭が
明るくなった

バラが散った バラが散った いつの間にか
ぼくの庭は 前のように 淋しくなった
ぼくの庭の バラは散って しまったけれど
淋しかった ぼくの心に バラが咲いた
バラよ バラよ 心のバラ
いつまでも ここで咲いておくれ
バラが咲いた バラが咲いた
ぼくの心に いつまでも 散らない
真赤なバラが